

Interview

医薬品情報プラットフォーム FINDAT について

一薬局は地域における医薬品情報室としての機能強化が必要一



日本調剤株式会社 取締役 FINDAT 事業部長
聖マリアンナ医科大学客員教授
増原 慶壮氏



日本調剤株式会社 FINDAT 事業部 部長
上田 彩氏

聖マリアンナ医科大学病院時代から日本版フォーミュラリーの泰斗として活躍された増原慶壮氏と、同病院薬剤部でフォーミュラリー作成の実務にあたられた上田彩氏。現在は日本調剤(株)というビジネスステージで活躍されるお二人に、これからの薬剤師、薬局における医薬品情報提供のあり方についてお聞きしました。

医薬品情報の収集・提供が重要になってくる

一薬機法改正で地域連携薬局、専門医療機関連携薬局という認定薬局制度がスタートしました。増原取締役はこれをどう読み解きますか？

増原 「これからの薬局は医薬品情報の発信力が問われる」と書いたり¹⁾、発言してきましたが、今回の認定薬局の条件を見ると、地域の医療機関との薬物治療に関する情報提供の連携や、地域の医薬品情報室としての役割等、まさに医薬品情報発信力の拡充を求めています。地域の診療所の医師などからの問い合わせへの対応が求められるようになり、また対物から対人へとという流れの中でも薬局から患者さまに医薬品情報を発信していくことが重要になってくるはずですよ。

一どういった医薬品情報の発信が求められますか？

増原 認定薬局で専門・認定薬剤師としての地位が確立すれば、積極的な処方提案や医師からの質問もより高度になります。添付文書やインタビューフォーム等製薬企業から提供される医薬品情報に加えて、独自に収集した中立的な情報も必要になります。そのような医薬品情報をどう収集し、分析し、評価して発信していくかがカギになります。

一上田部長はいかがですか？

上田 これまでの薬局業務は、調剤が中心でありましたが、認定薬局等で求められるのは、病院の薬剤師で言えば、病棟業務のように薬剤師も医師などと連携し患者さまが治療を続けていくために支えていく存在となります。そのような業務を行う上で、薬物治療の質を高める医薬品情報が必要となります。国が薬局に地域の医薬品情報室の役割を求めているのは、薬剤師が医薬品情報を提供し地域の医療を支援していくことの重要性の再認識だと思います。薬剤師の医薬品情報発信という意味では英国の NHS (National Health Service) 下の地域医薬品情報センターが参考になります²⁾。一それはどういう仕組みでしょうか？

上田 NHS は登録制家庭医を基盤にした地域型医療を特徴とします。地域医薬品情報センターは地域の家庭医や薬局薬剤師からの問い合わせに応じています。これによりプライマリケアでの多くの医薬品による問題が解決しています。地域医薬品情報センターが薬局、薬剤師による中立的な医薬品情報発信を支え、有効で経済的な薬物治療の推進、医療財源の有効活用を実現しているのです。私は今回の認定薬局制度がその先駆けと考えているのですが、いずれわが国の薬局でも EBM³⁾ に基づいた情報提供が求められる、そういう時代に入っていきそうな感じはしています。

医薬品情報プラットフォーム・FINDAT について

一今話題の「FINDAT⁴⁾」はわが国の医薬品情報の標準化と効率化を目指して開発・事業化されたわけですね。そのコンセプトをお聞かせください。

増原 最適な薬物治療を支えるために、医薬品情報の収集に加え、情報の信頼性や科学的根拠を評価するための基礎的な知識や、主体的な提案能力がますます求められるようになってきます。そういった医療環境の変化を見据えて開発した、医療従事者のための医薬品情報プラットフォームです。

上田 前述したように、地域の医師や薬剤師に対し、薬局や薬剤師が中立な立場で医薬品情報を提供する英国のような地域医薬品情報センターがわが国にも必要だと考えていて、その視点から開発に参加しました。コンテンツとしては様々なデータソースや、国内外の各種ガイドライン、グローバルで信頼性の高い有料の二次情報データベースなどから網羅的に収集した医薬品情報を専門家による審査・査読を受け中立的に評価し、ウェブ上で提供するサービスとなっています。

一すでに日本調剤の一部店舗で試験導入されたと聞きますが、どういった狙いがありますか？

増原 患者さまへ良質な医療サービスを提供するために、認定を目指す弊社薬局における FINDAT 活用事例の創出です。地域における医薬品情報室としての機能を強化し、薬物治療の更なる質の向上を目指すツールとして活用しながら、FINDAT の“成果データ”の蓄積を行っていきます。

一FINDAT のこれからのについてお聞かせください。

上田 FINDAT を通じて薬局や医療機関等の臨床業務に必要な医薬品情報ネットワーク構築を目指すことで医薬品使用が最適化され、持続可能な医療の提供に薬局、薬剤師が貢献できるものにしていきたいと考えています。

増原 FINDAT は標準フォーミュラリー、薬効群比較レビュー、新薬評価など5つのコンテンツを備えています。医療における多くの課題の中で、FINDAT がフォーミュラリーの推進やジェネリック・バイオシミュラー医薬品の有効活用を通じて、標準薬物治療や医療費削減に貢献できると確信しています。今後も持続可能な社会保障制度の基盤となる医療費適正化に寄与できる医薬品情報プラットフォームとして成長させたいと思っています。

一ありがとうございました。

1) 「フォーミュラリーマネジメント (2019年 / 薬事日報社刊)」参照

2) 上田氏は英国で薬剤師としてノースウィック・パーク病院等に勤務後、聖マリアンナ医科大学病院を経て日本調剤(株)に入社されています。

3) Evidence Based Medicine 「根拠(臨床結果・論文等)に基づく医療」と訳される。数多くの確実な臨床試験で有効性の根拠がはっきりしている薬剤や治療法。

4) 「FINDAT(ファインダット)」とは「FIND(見つける)」+「ATLAS(地図)」を組み合わせた造語。「FINDAT」は日本調剤(株)の登録商標。https://info.findat.jp/